

vol. **04**

令和2年度 第4号
(年間4回発行 通巻第158号)

組合活性化情報 中央会とくしま

特集

四国の元気な組合を紹介します

徳島県中小企業団体中央会 <http://www.tkc.or.jp/>



組合活性化情報 中央会とくしま

vol. 04

令和2年度 第4号
(年間4回発行 通巻第158号)

特集

四国の元気な 組合を紹介します

2

組合クローズアップ 第8回

富士製紙企業組合

9



mono 株式会社

～宝石のような石鹸・
化粧品を製造販売～

12

組合ホットニュース

16

- ◎富岡商店街協同組合
感染対策の飲食店等に「VS コロナ」提灯を配布/
あなまちマルシェ 2020 を開催
- ◎徳島市東新町一丁目商店街振興組合
組合事務所を多目的レンタルスペースにリニューアル
- ◎鴨島町商店街連合協同組合
クリスマスイベントを開催
- ◎徳島県クレーン協同組合
徳島県と大規模災害発生時における支援活動に関する協定を締結
- ◎徳島県中古自動車販売商工組合
「徳島の盲導犬を育てる会」に寄付

情報連絡員レポート

19

令和2年12月の景気動向

青年部コーナー

20

- ◎青年部活動トピックス
◇令和2年度 組合青年部リーダー交流会議を開催◇

女性部コーナー

21

- ◎女性部活動トピックス
◇とくしまレディース中央会「研修会及び新年交流会」を開催◇

中央会トピックス

22

- ◎令和2年度モデル組合を紹介します
徳島製材団地協同組合/全日食チェーン四国協同組合
- ◎実践的な営業力向上セミナーを開催
- ◎組合管理者講習会を開催
- ◎新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けた取組みの
促進について要望
- ◎中小企業使える BCP 訓練モデル事業・BCP 図上訓練を開催

中央会事務局職員

十人十色

27

- ◎連携推進課 主事 三木 理恵

お知らせコーナー

28

- ◎新型コロナウイルス感染症対策
新型コロナウイルス感染予防について

編集
後記



表紙絵

作者：徳島県中小企業団体中央会顧問 布川 嘉樹氏

タイトル：「日峰山頂からの眺望」

日峰山は徳島市と小松島市との境に位置します。標高 191.6m 東西約 3.5km で中津峰、津乃峰とともに阿波三峰の一つです。日峰山一帯は日峰大神子広域公園として整備されており、ドライブウエイも完成し、頂上広場には駐車場展望台が設けられています。付近には日峰神社・野外活動センター・桜・つつじ・椿園等があり憩いの場となっています。展望台から見る景色は素晴らしく、晴れた日には紀伊水道、鳴門・淡路を経て和歌山地方がはるかに見えます。



特集

四国の元気な組合を紹介します ～令和2年度組合資料収集加工事業から～

昭和 57 年度から全国中央会と都道府県中央会が連携し、環境変化に対応した共同事業などに先進的に取り組んでいる組合の諸事例を収集して、その活動や共同事業の手法などを他組合へ移転することを目的に、組合資料収集加工事業を実施しています。

令和 2 年度の収集テーマは、「A. 事業継続力」「B. IT、デジタル変革」「C. 特徴ある活動」の 3 つを取り上げ、専門家の協力を得ながら詳細な調査・分析を行いました。本誌では、これらのテーマに取り組んでいる四国の先進組合事例の抄録を紹介いたします。

A 事業継続力

協同組合徳島総合流通センター（徳島県）

■住所	徳島県徳島市川内町平石流通団地51番地	■電話	088-665-4100
■設立	昭和51年3月	■組合員数	38人
■出資金	940,320千円	■主な業種	異業種

キャッチ フレーズ

地域における団地の
価値向上を図り、将
来にわたって組合の
活力を維持する

事業・活動実現の キーファクター

共通したビジョンを持つことで、組合員、
役員、各委員会、青年部、事務局がそれ
ぞれ主体的に事業を進めていくことがで
きている。

1. 背景・目的

協同組合設立から 44 年が経過し、建物の老朽化に対する維持補修費用の増大化や大規模な建て替え需要がある中で、団地の価値向上を図り、将来にわたって組合の活力を維持していくためのビジョンを検討していくことが必要となってきた。そこで、地域とともに発展する新事業を開発し、全く新しい団地をイメージする再整備事業に着手した。

2. 取組みの手法と内容

これまで当組合は団地の活力維持と地域社会への貢献のために各種事業を地道に実施してきた。

地域社会に貢献し、地域における団地の価値向上を図ることを目的として 1990 年から毎年「リオデ徳島音楽祭」を開催している。この音楽祭は、日本音楽コンクールの上位入賞者を演奏者として招き演奏会を開催するもので、出演者・観客ともに好評で、徳島になくてはならない音楽祭として定着している。また、2013 年からは参加型の防災訓練にも取り組み、毎年 10 月に組合員、近隣住民を交えて合同緊急避難訓練を実施している。

さらに、組合の継続した発展のため、人材の確保と定着率の向上が必須と考え、2018 年には徳島県中央会実施の「人材定着事業」に組合で取り組んだ。組合員企業 14 社が出席し、徳島県下の 5 教育機関の就職担当者と組合員企業の間で就職支援活動内容等について意見交換を行ったことにより、

各大学就職担当者とのつながりを作ることに成功した。

今後、さらに団地の価値を向上し、活力を維持するためのビジョンが必要であるとの考えから、2016年からは、若手組合員と専務理事で特別委員会「ビジョン委員会」を編成し、先進団地の視察などを行ってきた。生まれた時から整備された団地で事業をしてきた若手経営者は、これまで団地のメリット・デメリットについて深く考えることもなかったと言う。先進団地の視察を行うことで、自分たちの団地のことについて改めて考え、組合員でいることのメリットを感じることもできた。その結果「自分たちの団地」をよりよくしたいという思いを強く持つようになった。2020年7月からは、団地再整備事業委員会を開始し、市場調査・老朽化した建物の調査などを本格的にスタートした。

今後は、その調査結果をもとに、地元住民と協調した活動を展開し、地域の人たちにとっても、組合員にとっても「価値のある団地」を目指して議論を進めていく。

3. 成果とその要因

成果としては、団地の新たなビジョンにむけて団地再整備事業委員会を開始し、市場調査等を本格的にスタートさせたことで、団地の魅力を追求・改革を実施できる体制を確立したことが挙げられる。また、成功の要因はこれまでの地道な活動を地盤として組合が一体となって取り組んでいることである。



合同緊急避難訓練



合同入社式



リオデ徳島音楽祭

香川県うちわ協同組合連合会（香川県）

■住 所 香川県丸亀市港町307番地15
■設 立 昭和41年12月
■出 資 金 750千円

■電 話 0877-24-7055
■組合員数 3 会員（所属員25人）
■主な業種 団扇の製造又は販売を行う事業者

キャッチ
フレーズ

丸亀うちわの継
承・発展のために
ニュー・マイスター
制度を制定

事業・活動実現の
キーファクター

ニュー・マイスター制度が整備されたこと
で、一定の技術水準が担保され、香川県う
ちわ協同組合連合会や丸亀市役所はイベン
ト等への派遣要請が容易になった。

1. 背景・目的

香川県うちわ協同組合連合会では、国の伝統的工芸品に指定されている「丸亀うちわ」の基本的な技術・技法を2週間程度で習得する「丸亀うちわ技術・技法講座」を平成10（1998）年度より実施しており、令和2（2020）年10月末までに244名の修了生を輩出している。同講座修了後には、「職業」としてうちわ作りに関わりを持ちたい人もおり、活躍の場を多く与えることが課題であると感じていた。そこで、「丸亀うちわニュー・マイスター制度」を平成25（2013）年度より制定することとなった。

2. 取組みの手法と内容

「丸亀うちわニュー・マイスター」は、骨加工や貼加工などの各工程を完全分業制で行っている従来の（組合員企業内の）職人を対象とするものではなく、同講座により丸亀市の特産品である丸亀（竹）

うちわの全製作工程の技術・技法を身に付け、その修了後3年以上の実務経験がある者が対象となる。同連合会事務局が同講座修了生より適格候補者の選定を行い、「丸亀うちわニュー・マイスター登録審査会」の意見聴取を経た後に同連合会会長が認定している。

令和2(2020)年10月末現在、30名のニュー・マイスターがおり、伝統工芸士とともに、丸亀うちわの伝統と技術の継承・発展を支えている。最近では、瀬戸内国際芸術祭会場での土産販売や近隣の学校への出前講座など、イベント時に活躍の機会が見いだされるが、この推進には丸亀市役所の助力がある。

3. 成果とその要因

認定されたニュー・マイスターは、同連合会のHPに、氏名、顔写真入りで掲載されている。組合員企業での安価な商品としてのうちわ生産は大量生産方式であるが、もともとうちわには「工芸品」としての側面があり、このことを同制度の制定をきっかけとして多くの組合員が再認識している。丸亀市役所としても、同制度が整備されたことで、一定の技術水準にあるうちわ職人を確保しやすくなり、イベント等への派遣要請が容易になった。

うちわにはなによりも実用性が重視されるが、我が国の伝統的工芸品として、クールジャパンの一環として諸外国にPRしていくべきであり、その際には、ニュー・マイスターの派遣が期待される。



ニュー・マイスター認定式



丸亀うちわ技術・技法講座では
ニュー・マイスターが講師を務める

愛媛新聞販売所協同組合（愛媛県）

■住所 愛媛県松山市大手町1丁目12番地1
■設立 昭和55年12月
■出資金 6,800千円

■電話 089-904-4394
■組合員数 117人
■主な業種 新聞販売・配達業

キャッチ
フレーズ

新聞の使命と人命
を守るため事業継
続力強化計画策定

事業・活動実現の
キーファクター

実体験からBCPの必要性を痛感しすぐに行動したこと、適切な専門家に出会えたこと、「新聞の使命と人命を守る」という理念に基づいて推進できたことが大きな成功要因である。

1. 背景・目的

平成30年7月の西日本豪雨では、組合員7店が被災し、うち3店で1日分の配達中止を余儀なくされた。自然災害が事業継続に深刻な影響を及ぼすことを体験したことで、かねてより台風の大型化や南海トラフ地震への対策として協議されていた事業継続力強化計画(BCP)策定の機運が盛り上がった。

2. 取組みの手法と内容

事業実施以前は、災害対策については個々の販売所に任せている状態であったが、西日本豪雨を機に、統一的な災害マニュアル作りの必要性が組合内及び愛媛新聞本社において議論されるようになった。最終的に、事業継続力強化計画＝BCP策定を進めることについては、関係者間に意見の相違はなかったものの、どのような方向性で計画を策定するかについて、組合と本社との間で協議を重ねた。

本社からの「新聞を配らなかつた場合、読者の問い合わせなど丁寧な対応が必要だ」といった懸念事項に対し、組合は「電話を受けられる従業員を確保することで対応は可能だ」など説明。協議の結果、「配達員の人命の尊重が最優先」との認識で一致した。実施主体としては、組織横断的なプロジェクトチームを作るより、既存委員会を活用した方がスムーズに実施できると判断し、労務委員会を担当とした。

具体的な策定手法は、愛媛県中小企業団体中央会の「ものづくり企業等災害時対応事業」でBCP専門家の派遣を受け、計4回の講習会を開催して学んだ。

新聞販売所は、日々社会の情勢を伝え、国民の知る権利に奉仕する社会インフラの一部を担っている。その使命を果たしながら、災害発生時には新聞配達員の安全を確保するために、体系的な計画は不可欠である。この「新聞の使命と人命の確保」を目的として、本事業は展開されている。

3. 成果とその要因

令和2年9月末時点で計画策定を終えた販売所は60店（組合員117店）である。他業種ではなかなか作成が進まないBCPであるが、短期間でここまでの成果を上げられたのは、西日本豪雨後すぐに行動したことと、適切な専門家の指導が受けられたことが大きい。今後は、できるだけ早期、遅くとも令和3年の台風シーズン前までには全販売所でのBCP策定を達成したい。



BCP作成講習会の様子

宿毛建設資源利用協同組合（高知県）

■住所 高知県宿毛市橋上町橋上2300-1
 ■設立 平成4年6月
 ■出資金 83,000千円

■電話 0880-64-0151
 ■組合員数 48人
 ■主な業種 建設工事業又はコンクリート製品製造業

キャッチ
フレーズ

自然災害に備えて
地域との協同

事業・活動実現の
キーファクター

地域共通の課題に対して、組合並びに組合員の事業が如何に対応し、その活動にどれだけの賛同が得られるかが成功の鍵となる。

1. 背景・目的

高知県で30年以内に70%以上の確率で発生するといわれている南海トラフ地震に備え、地震が発生するまでに組合として準備しなければならないこと、また発生後に組合としてできることを明確にし、被災地を訪問し学んだことを多くの方へ伝えると共に地元で組合並びに組合員事業の継続性を高めることを目的に本活動に取り組んだ。

2. 取組みの手法と内容

元々台風などの自然災害が多い本県において、被災時においてなすべきことなどの基本的な意思統一は図れていたため、総会による意思決定後、理事会で取組みの内容について検討。目標としては、

①地域住民及び行政に対して自然災害の恐ろしさを知って頂くこと。②防災工事によって被害を少しでも食い止めることができること。③その上で、一人一人がどのような行動をとるべきかを考えて頂くと共に、地域の建設業が果たす役割や必要性を認識して頂き、組合並びに組合員の事業の継続性を高める。の3つを掲げることにした。

当組合では豪雨災害にみまわれた岡山県真備町や愛媛県宇和島市はもとより南海トラフ地震に備え、東日本大震災の被災地を訪問。被害・復興状況の確認や、被災者へのインタビューを通して実際に被災した地域を視察することにより、地域に対して当組合が果たせる役割を検討すると共に地域住民への啓蒙普及のためのDVDを作成した。併せて組合員が、被災が想定される箇所に建設廃材を利用した大型土嚢を積み上げ、被害を最低限に食い止める活動の準備をしたり、避難経路の確保・整備に努めている。

また、作成したDVDを行政や学校に配布すると共に、地域住民にも見て頂くことで、防災に対する意識を改め、地域内の組合員や当組合の活動の意義への理解が深まった。

3. 成果とその要因

以前は宿毛市の片島港で実施する計画の岸壁工事について、岸壁が高くなると景観が悪くなるという声が多くあったが、DVD配布後は津波災害に対して、岸壁工事に賛成する声が増えてきたなど災害に備える意識の変化がみられるようになった。

行政に対しても、予算の使い方・人員と合わせた確保や被災時の優先順位、自然災害に想定内はないことなどを訴えており、地域内のある町では庁舎を高台に移転するなど実効を上げている。



制作したDVD



建設廃材を活用した大型土嚢

C 特徴ある活動

小豆島手延素麺協同組合 (香川県)

■住所	香川県小豆郡小豆島町池田1031番地	■電話	0879-75-0039
■設立	昭和26年10月	■組合員数	84人
■出資金	24,526千円	■主な業種	手延素麺製造業

キャッチ
フレーズ

地元原料等を使用した手延べ素麺の新商品を開発し、販路を拡大

事業・活動実現の
キーファクター

「営業は組合、生産は組合員」という機能分
化が徹底しており、組合が主体的に販路開拓
を行っている。

1. 背景・目的

零細業者が個々で販売することによる不利益を解消するため、昭和26(1951)年に組合ブランド

の素麺「島の光」を商標登録し、このブランド名にて組合を窓口として一括販売している。長い間、新商品を出していなかったが、他の産地との差別化を図るため、地元の原料を使ったものや健康訴求のできるものが必要であると考え、新製品の開発に取り組んだ。

2. 取組みの手法と内容

平成 28 (2016) 年より、生産者が集まったの試食会や、製粉会社の研究スタッフに来てもらい勉強会を開催。試行錯誤の末、平成 30 (2018) 年によく「島の風」、「島のへんろ道」、「島の雪」の3商品を製品化することができた。

- ① 「島の風」：香川県産の小麦「さぬきの夢 2009」と北海道産小麦をブレンド。さぬきの夢はもとも、うどん向けに作られた小麦だが、中心部だけを使い“黄金比率”でブレンドすることで、もちもちとした食感の素麺になっている。
- ② 「島のへんろ道」：香川県善通寺の名産「ダイシモチ麦」を使用。健康志向からもち麦が注目されているが、ダイシモチ麦は精白米の約 30 倍の食物繊維を含むと言われる。
- ③ 「島の雪」：北海道産小麦を 100% 使用。粘りと弾力ある食感が特徴で、小麦の豊かな風味が感じられる。

各 250g で、「島の風」、「島のへんろ道」は税別 450 円、「島の雪」は税別 400 円である。生産を引き受ける組合員探しが難航したが、チャレンジ精神のある比較的若い経営者に生産を依頼した。主力商品である「島の光」に対して約 2 倍の価格であるため、販路開拓が難しいが、関東方面の高級品を扱うスーパーや生協に売り込みをかけた。

3. 成果とその要因

平成 30 (2018) 年に開店した、東京都内にある素麺専門店「そそそ」では、本組合の「島の光」を基本としているが、最近、これに「島の雪」も加わった。また、今シーズン、新たに 2 生協も取り扱うことを予定しており、販路は徐々に拡大していくことが期待できる。「営業は組合、生産は組合員」という機能分化が徹底しているのが本組合の特徴であり、コロナ禍の状況下、組合主体で新商品のネット通販にも注力していきたい。



今回、開発された 3 種類の新商品

企業組合森の風 (愛媛県)

■住所	愛媛県北宇和郡鬼北町大字小松1393番地	■電話	0895-48-0027
■設立	平成28年6月	■組合員数	24人
■出資金	650千円	■主な業種	農業

キャッチ
フレーズ

地域とともに成長
する組織づくり

事業・活動実現の
キーファクター

農作物の特性を理解することである。組合員の意向を十分に把握する必要があり、ゆっくりと地域事情を理解し事業活動に立ち向かうこと。無理は禁物である。

1. 背景・目的

愛媛県内でも特に少子高齢化が進行する地域において、農業者、製造業者、会社員等の地域の活性化を願う人々が集まり、話し合う中で生まれた組織である。共通項は、地域の課題である耕作放棄地を活用し、えごま油の製造・販売を通して、地域を何とかしたい、楽しく暮らしたいとする熱意から設立した。

2. 取組みの手法と内容

当組合は設立5年目を迎え、緩やかに粘り強く成長している。近年、えごまは健康食品として注目されており、無農薬で安心・安全なえごまを生産し、えごま油を製造・販売している。組合員は生産（作付・刈取）や製造（搾油）、販売営業等、各々の特徴を生かし組合活動に貢献している。

当初はそれなりの目標を設定していたが、実際に事業を展開するうちに、成果を上げるには初めての農作物であることに加え、慢性的な人手不足のために失敗が相次ぎ、緩やかな発展を志向せざるをえなかった。えごまは一般の農作物と違い、肥料をやり過ぎると成長しすぎてしまうため、背丈や葉っぱは大きくなるが肝心の種子が思うほど取れず、刈取時には多大な労力を要する。労力を最小限に抑え、種子の収穫量を多くするには、一定の高さで横広がりにするものであり、芽摘みなどの試行錯誤を繰り返した。これらの作業経験を活かしたマニュアルを作成し、組合員と情報交換を行う必要があると理解できた。

現在は人手不足のため生産量が少なく、地域を限定した販売しか行っていないが、生産量の拡大とともに販路も拡大していきたい。人手不足の解消においてはグリーンツーリズムを通じて、空家を利用した宿泊型の農業体験や地域の高齢者や障害者と連携を行い、人手不足解消とともに地域活性化につなげていきたい。

3. 成果とその要因

地域住民にもえごま油が健康に有効であることが知れ渡り、一定の評価を得て、急速に販売量を伸ばしている。地域と連携を図り、町のイベントなどにも積極的に参加した。耕作放棄地再生を望む依頼も増加しており、より一層、地域の賑わいへの貢献が期待できる。成果を上げられた要因は地域住民や町との連携を図れたことが大きい。



えごまの乾燥風景



無農薬栽培した安心・安全なえごま油

本会は、多種多様な業種の組合等が会員となっていていただいています。各組合がその特徴を活かし日々活動が続けており、今後の組合活動のご参考になるよう、会員の皆様方の仲間を取材し、紹介していきます。

富士製紙企業組合

和紙の伝統文化を守りながら 新鮮な感性を届ける阿波和紙づくりを目指す

■「阿波和紙」の歴史

日本において古くから和紙は、障子や提灯などに使われ、家具や照明には欠かせないものであり、光と空気を通すその性質から、人々の暮らしには必要不可欠なものでした。

阿波和紙の歴史は古く、今から約1300年前、阿波忌部氏（あわいんべし）により始まったといわれています。

江戸時代には、阿波藩の藩札などの御用紙のほか、特産の藍を使った藍染和紙により全国にその名が知られています。

また明治23年のパリ万国博へ出品されるなど、時代とともに発展し、紙漉の戸数も明治の最盛期には吉野川流域に500軒、そのうちの200軒は、現在の吉野川市山川町に在り、和紙産業はこの地域の一大産業になりました。

しかし、大正時代に入り大量生産の機械製紙や安い原材料の輸入などにより、徐々に阿波和紙は衰退し、現在は紙漉業者が1社（富士製紙企業組合）となりました。

阿波和紙の伝統を守り続けることで、阿波和紙が昭和45年には徳島県無形文化財に指定され、昭和51年には経済産業大臣指定伝統的工芸品に指定されました。

■「阿波和紙」の特徴

和紙の原料は、楮（こうぞ）、雁皮（がんび）、三桮（みつまた）の韌皮繊維（じんぴせんい）ですが、これ以外に麻や竹なども用いられます。

阿波和紙は、伝統的な手法である「流し漉き」や「溜め漉き」という技法を用いて、職人が一枚一枚丁寧に作っています。



阿波手漉き和紙の製造技法を実演



様々な用途に用いられる阿波和紙

(注) 韌皮とは、植物の外皮の下にある柔らかな内皮。

阿波和紙の特徴は、水に強く破れにくいこと、またその独特の美しさなどから多くの人に愛用されています。

■ 阿波和紙のブランド「アワガミファクトリー」の確立とブランド展開

唯一残った紙漉き業者である藤森家が、阿波和紙の伝統を守り続けるため、昭和27年に富士製紙企業組合を設立しました。組合では、約20年前に阿波和紙ブランドの総称として「アワガミファクトリー」と名付けました。

組合では、機械抄紙・染紙・和紙加工品の製造を行いながら、現代の印刷技術に対応したインクジェット用和紙やインテリア用和紙の開発などにも力を入れています。

紙漉き業者が1軒になっても商いとして阿波和紙ブランドを確立できた背景には、阿波和紙とアーティストとの出会いが大きいと考えています。

そのきっかけは、衰退しつつある和紙の需要をどう掘り起こすかを考えた時に目を向けたのが海外でした。国内には様々な和紙の産地があり、良くも悪くもつながりがあり、つながりの深いところへ割って入るよりも、外の世界へ目を向けた方が勝てる要素があるという発想からでした。

組合では、和紙の伝統を守っていただけでは生き残っていけないため、時代のニーズをつかみ、新しい技術を取り入れて柔軟な発想でものづくりをしなければならないと考えています。

そこで、伝統的な技術を活かしつつオフセット印刷やインクジェット印刷が可能な和紙など、新しい技術を積極的に取り入れ、現在のライフスタイルに合った和紙を次々と提案しています。

近年、特に力を入れているのが「アワガミインクジェットペーパー」です。独自の技術で開発されたインクジェット紙は、発色や耐久性に優れ、アーティストだけではなく、グラフィックデザイナーやブックデザイナーたちからも絶大な支持を得ています。

■ 製造現場におけるデータの見える化による労働生産性向上の推進

現在、組合では、若年者への製造ノウハウの伝承の難しさ、高齢化による労働力不足、注文数量の少ロット化による煩雑な生産計画の変更や段取り替えのロス時間の発生などによる稼働率の低下など多くの課題を抱えており、収益の圧迫要因になっています。

このような課題を解決するためには、デジタル技術を活用して製造現場を「見える化」し、作業者をサポートするシステム構築が必要になっています。

そこで、全国中小企業団体中央会の令和2年度組合等情報ネットワークシステム等開発事業を活用し、各種センサー類と作業員の作業データの収集を行い、「可視化する」ことにより現状を容易に把握し、稼働率低下の原因を明確にして、対策を講じる取り組みを実施しています。また、データの保管、分析、利用することができる人材の確保と育成を目指すこととしています。

本事業で構築するシステムにより、工場内では製造装置に設置された計測器や計測センサーからリアルタイムに情報が収集され、過去の設備や品質の履歴を比較分析して異常アラートや作業へのアドバイスがモニター等で表示されます。これにより、作業の軽減化が図られ、品質の維持や改善活動に時間を振り向ける事ができるようになります。

また、過去の履歴や受注情報により、最適な生産方法のシミュレーションができ、生産計画の精度を向上することができ労働生産性の向上につながるようになります。

本事業で構築したシステムを「アワガミ見える化システム3.0」と位置付け、今後ブラッシュアップをしていくこととしています。

■ 業界の将来を見据えた今後の活動

組合が販売する阿波和紙は、オンラインでの販売が好調なことなどもあり、近年安定した売上を上げていましたが、新型コロナウイルス感



アワガミオンラインストア
(<http://www.awagami.or.jp/>)

染拡大の影響を受け、令和2年の売上は前年に比べ25%減少しました。

このため、未来を見据えて新たな商品を収益の柱に育てることが必要となりました。そこで着目したのが、室内で過ごす時間が増えた現在、注文が決まれば一度にまとまった量の出荷が見込める壁紙です。

阿波和紙で作られた壁紙の特徴は、様々な柄や複雑な模様が和紙に印刷機でプリントされること、光を柔らかく受け止め、室内に独特の温かみをもたらすことです。

組合では、以前からプリンタに対応した和紙を製造しており、その技術を活かし、10数年前から旅館で使われる襖や和紙で作ったインテリア用品の開発に取り組み、壁紙の開発も続けていました。

昨年には和紙の厚さなどを改良することで、公共施設などで使用されるために必要な防火認定を取得し、使用可能な施設の範囲が拡がり、売り出す体制を整えました。

なお、売り出すために必要なことは、和紙の

壁紙の存在を知ってもらうことです。展示会の開催だけでなく、コロナ禍の中で、より多くの人に見てもらう方法を検討しました。

そこで、開始したのがビデオ会議システムを使った壁紙の展示会をライブ配信する取り組みです。ライブ配信では、担当者自らカメラを持ち、壁紙の魅力を伝えるとともに、和紙の壁紙を実際に設置した同組合の食堂の様子も公開し、少しでも実感を持ってもらえるよう工夫を凝らしました。ライブ配信をすることで、展示会場の空気感などを伝えることができると考えており、本取り組みによって、より多くの人に知っていただくことで、新たなニーズが生まれてくるのではないかと考えています。

今後も組合では、オンラインツールを効果的に使い、商談を進めるとともに、壁紙のデザイン性などを追求して販路を拡大していきたいと考えています。



藍染和紙で作られた襖

組合プロフィール

富士製紙企業組合

住所：〒779-3401
徳島県吉野川市山川町川東136番地

電話：0883-42-2035

FAX：0883-42-6085

理事長名：藤森 洋一

業種：紙・紙加工品製造業

組合員数：10人

設立年月日：昭和27年1月23日



理事長
藤森洋一氏



mono 株式会社

中央会では、平成 24 年度から始まった補正事業「ものづくり補助金」の地域事務局として、ものづくり・商業・サービス分野において独自の事業展開に取り組む事業者を対象に、補助金交付や事業推進支援を行っています。このコーナーでは、本補助金を活用して成果を上げておられる県内中小企業の皆様方を「ものづくりの達人」としてご紹介しています。

第 25 回目は平成 30 年度からものづくり事業に取り組まれた『mono 株式会社』をご紹介します。同社は、新たな設備を導入し、製造工程の見直しを図り、製造能力面の向上や新たな商品価値を付与することで、ブランド力の強化や顧客満足度を向上させ、自社の優位性を確立されて来られました。

今回は、青木陽子社長にお話を伺いました。

1 御社は 1999 年（平成 11 年）4 月に創業されています。そのきっかけについて教えてください。

当初は、コンピュータサービス会社を立ち上げ、パソコン教室などを営んでいました。

現在の手作り石鹸の製造・販売の業種に変えたのは 2005 年（平成 17 年）です。そのきっかけは、私の子どもがアトピー性皮膚炎で肌が弱かったため、つらい症状をなんとかしてあげたかったからです。

私は、独学で石鹸の作り方を研究し、肌に優しい素材を選び抜いて、石鹸を手作りしてみました。その石鹸を子どもに試用してみましたところ、アトピー性皮膚炎が約 2 年で完治しました。

元々、自家用として作り始めた石鹸でしたが、



mono 株式会社事務所併用作業場

こんなに効き目があるなら同じ悩みを抱えている人にも試してほしいと思い、手作り石鹸を皆様にお裾分けしていくうちに、気付いたらお店になっていきました。

そして、現在は、全国各地の方々に向けて、石鹸の原材料をインターネット販売することにより、全国のお客様に末永く愛用されるアイテムとして届けられるようになっています。



青木陽子社長

2 宝石のような石鹸が作れる「宝石石鹸キット」が注目され始めたのは、ごく最近とお聞きしていますが、そのアイデアはどのようにして生まれたのでしょうか。

宝石石鹸は、フランス発祥で、多くの海外のアーティストやセレブも愛用しているとのこと

で話題になりました。また、海外では有名百貨店をはじめミュージアムショップなどでも取り扱われており、自分へのご褒美や大切な方への贈り物として大変喜ばれています。

さらに、すでに宝石のような石鹸を作ることがブームになっており、それを日本でも書籍やマスコミなどで紹介されたのが発端です。

宝石石鹸の魅力は、なんととっても透明感のある美しさです。また、一つ一つがオリジナルで、同じ色を使用して石鹸を作っても、全て表情が違ってきます。

試行錯誤しながら、様々な宝石石鹸を作り続けることで、クオリティが上がってきます。

宝石石鹸は、インテリアを彩る小物、友人へのプレゼントやウェディングギフトなどにも利用されています。

宝石石鹸の特徴は、見た目の美しさだけではなく、自然素材の原料を使用しているので、お肌に優しく滑らかな洗い心地です。

2019年（平成31年）から電子レンジで溶かして宝石のような石鹸が作れる「宝石石鹸キット」として、透明石鹸とカラー石鹸7色をセットにし、作り方を添付して販売を開始したところ急速に人気が出始め、ラジオテレビ、書籍などの取材を受け、紹介されるようになりました。

当社の「宝石石鹸キット」は、天然色素だけを使ったナチュラル志向、使いやすい、作りやすい形状をコンセプトに他社との差別化を図っています。



宝石石鹸

3

平成30年度補正ものづくり補助金事業では『「宝石石鹸キット」製造における、商品価値と生産性向上計画』をテーマに事業を行われました。その事業内容と成果についてお伺いします。

宝石石鹸キットは、以前はすべて手作業で行っていたため、大変手間と時間がかかっていました。限られた人員では製造量が少なく、熟練工と新人では製造量に2倍から3倍の差がありました。

売れ行きは好調でしたが、他の商品に比べ製造時間がかかるため利益率が低く、他の商品を製造する人員が割けず商品が欠品するなど販売機会の拡大を損失し、生産性を向上させることが必要でした。

加えて、大量受注に対応できるよう、社内製造体制の整備も課題となっていました。

そこで、ものづくり補助金事業を活用し、石鹸をダイス状にカットできる裁断機（万能スーパーダイサー）を導入することで、手作業で行っていた石鹸の切り分け作業工程に要する時間が大幅に短縮できました。細かいダイス状に粉砕した石鹸は、計量しやすく、袋詰めも容易になりました。



裁断機「万能スーパーダイサー」

また高粘度な石鹼用染料の充填を定量充填機で行うことで、製造量も飛躍的に向上し、新人、熟練の区別なく高速で製造することが可能になりました。

さらに、包丁での切り分け、スポイトでの手作業充填、キャップ締めを機械化することにより、工員の腱鞘炎などの健康面の不安から解放されました。

これまで石鹼を板状のままキットにして販売していたものを設備導入後はダイスカットして販売しました。計量しながら袋詰めすることになるため、現在の製造工程よりも袋詰めには時間がかかりますが、切り分け時間を大幅に短縮できるため、トータルとしては生産効率が向上します。

加えて、新人工員がすべての工程を行うと、設備導入後はおよそ2.8倍の生産量となり、大きな効果が生まれました。

本事業の成果としては、他社では板状で石鹼を販売していますが、当社では使いやすいダイス状にした石鹼を販売できるため、顧客も使いやすくなり、リピートに繋がり、他社製品との差別化が図れました。

また、以前は大量受注の場合、数か月の準備期間を要しましたが、今では3分の1程度の期間で対応できるようになりました。

4 一般に石鹼は固形のために使い切ってしまうことは難しいと思います。
この宝石石鹼の特徴と固形であるためのムダ削減対策について教えてください。

石鹼は、電子レンジなどで加熱することにより、容易に溶け、着色、デザインすることができます。

石鹼が小さく使いにくくなった場合は、小さい物ばかりを集めて再度溶かして固めることもでき、新たな石鹼として再生できます。

また、市販の石鹼の価格には、原材料以外に広告費、包材費、営業費、さらには健康被害が起こった時の回収費や裁判費用なども含まれて

います。これらをすべて省いて、シンプルにより材料を使うことができるのも手作り石鹼の醍醐味です。

5 御社は多くの女性の方が子育てをしながら働いているようですが、面白いところ大変なところなど多様な働き方の現状と課題についてご披露いただけますか。

当社は、女性向け化粧品を取り扱うこともあり、社員の女性率は高めで、仲間意識も高いため、活発に意見が交わしやすい雰囲気があります。またオフィスに「社長室」が存在しないため、社長と社員も直接話ができる機会が多いのも社内のオープンな雰囲気に繋がっています。

また、当社では、女性ならではの提案を、商品開発に活かすことができます。新商品開発においても実際にスタッフが使用感を確認して練っています。

社員は、同年代の女性が多いため、常に2割ほどのスタッフが育児休暇を取得している状況です。長期のプロジェクトを抱えている時など、プロジェクト自体がストップすることもあり、今後社内体制の改善の必要性を感じています。



仲間意識の高い社員

6 インターネット販売の長所や短所について伺います。

インターネット販売の短所は、買い手の反応が分かりにくいということです。店頭販売なら、何を一番に手に取るかがよく分かりますが、イ

インターネットの場合は、キーワード検索で特定のページを閲覧するため、アクセス数=ユーザーの興味ではないことがあります。

一方、インターネット販売の長所は、大きな店舗を一等地に構えるコストが必要ないので、小規模な会社においてもビジネスチャンスがあると思っています。

当社は、創業以来インターネットのみでの販売でしたが、自社ホームページでの集客以外にも、ネッシーなどの卸売サイトに登録していくこととしています。

また、お客様によりお買い物を楽しんでいただけるよう、2021年（令和3年）2月18日にオンラインショップをリニューアルしました。

当社では、インターネットで注文から発送まで簡略化されても、結局は人と人とのやりとりなので、商品や対応を通して溢れる人間味によってお客様に安心感が得られることを追求しています。



リニューアルしたオンラインショップ

7 世界中を席巻している新型コロナウイルス感染症の流行が御社に及ぼした影響、あるいは及ぼしている影響についてお聞かせください。

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、消費者の消費の仕方が変わってきました。コロナ禍においても、当社では昨年に比べ売上は増加しています。

ECの需要は、新しい生活様式の定着により、ますます高まると思われていますが、長期的にコロナ禍に端を発した不景気が続くとECにも悪影響が出るのではないかと懸念しています。

当社では、今後もすべての女性が、自分らしく、生き生きと楽しんで生活していけるというライフスタイルをバックアップしたいと思っています。

【取材を通して】

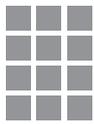
青木社長は、企業としての成長だけでなく、地域社会への貢献にも目を向けられていました。自社の取り組みとして、お腹の空いた地域の子どもたちに食事を振る舞って居場所を作る「こども食堂」というボランティア運動に参加され、イベントも定期的開催されるなど、地域に貢献されていました。

当日は、青木社長がお客様に好きなように化粧品の成分を調合してもらい、自分の肌に合う処方を見つけて化粧品を作ってもらいたいと考えており、その一環で宝石石鹸キットの販売を開始したお話などを伺いました。

また、作業場内の導入機器や宝石石鹸などの商品を説明して頂き、スタッフ一人一人が日々向上心と使命感を持って取り組む姿勢が商品にも現れていることを実感しました。

企業の概要

○会社名	mono 株式会社
○所在地	徳島市安宅1丁目7番39-1号
○電話	088-677-8723
○FAX	088-677-8723
○E-mail	info@mmoon.net
○HP	https://www.mmoon.net/
○代表者	代表取締役 青木 陽子
○設立年月日	平成11年6月9日
○従業員数	18名
○業種	化粧品製造販売業



組合ホットニュース

感染対策の飲食店等に「VS コロナ」提灯を配布 ～富岡商店街協同組合～

富岡商店街協同組合は、令和2年9月から新型コロナウイルス対策を講じた阿南市内の飲食店等を独自に認定し、上乗せした料金分の飲食ができる事業を始めました。

この事業は、コロナで深刻な打撃を受けた飲食店等を応援するのが目的で、飲食希望者がクラウドファンディングに寄付すると、飲食店から返礼品として寄付額に10～20%上乗せした飲食券が送られ、認定店舗で使えるようになっています。

事業の名称は、「VS コロナ あなん Re-Light プロジェクト」で、新型コロナウイルス対策の店舗認定の条件は、①客にマスク着用を促す、②大皿料理を避ける、③顧客名簿を整備する、など14項目を満たすのが条件で、組合員で構成した実行委員会のメンバーと阿南市危機管理部の職員が、認定を希望する飲食店等を訪問してチェックするようになっています。

令和2年9月中旬から飲食店等の募集を募り、居酒屋、焼き肉店、ホテルなど39店舗（令和3年1月31日現在）を認定しました。阿南市内のコロナ対策済店舗の専用ホームページを開設して紹介しているほか、認定店舗には「VS コロナ」と記された提灯を配り、目印として店先に吊ることとしています。



あなんまちマルシェ 2020 を開催 ～富岡商店街協同組合～

富岡商店街協同組合は、令和2年11月3日、8日、15日の3日間、阿南駅周辺で、阿南市内の店主や高校生等が食品や雑貨を販売する「あなんまちマルシェ 2020」を開催し、大勢の家族連れで賑わいました。

このマルシェは、平成30年から地元の賑わいを取り戻すために毎年開催しており、今回は、新型コロナウイルス感染防止対策として、これまで1回であった開催日程を3回に分け、会場も阿南駅前の芝生広場や児童公園等6カ所に分散してブースを設置しました。さらに、消毒液の設置、マスクやビニール手袋着用、食べ物は個包装にするなどルールを徹底し、徳島県が運営する「とくしまコロナお知らせシステム」のQRコードも各会場に設置、メール登録を促進しました。

会場での試食・試飲を行わないため、POPなどで商品の魅力を伝える必要がありましたが、事前に情報発信やSNSに関する勉強会も行い、各出店店舗を支援しました。



組合事務所を多目的レンタルスペースにリニューアル ～徳島市東新町一丁目商店街振興組合～

徳島市東新町一丁目商店街振興組合は、令和2年12月4日(金)組合事務所を貸し店舗や催し会場として活用する多目的レンタルスペース「ヒッツ・トクシマ」にリニューアルしました。

今回のリニューアルは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で人通りが減少する中、にぎわいづくりや新規出店を促進することを目的としています。

組合事務所は、2階建て延べ約100㎡で、商店街の中心部に位置しており、飲食店や小売店、オフィスなどの利用を想定し、キッチンやWi-Fi環境を整備しました。

レンタルスペースは、誰でも利用ができ、一日だけの利用も可能となっており、今後、組合では、ホームページの開設やパンフレットの作成により周知していくこととしています。



クリスマスイベントを開催 ～鴨島町商店街連合協同組合～

鴨島町商店街連合協同組合は、令和2年12月20日(日)鴨島駅前の商店街一帯で、クリスマスイベントを開催し、大勢の親子連れなどで賑わいました。

このイベントは、経済産業省の「Go To 商店街」事業を活用したもので、新型コロナウイルス感染拡大の影響でイベントが開けず、更に商店街の活気を失う中、商店街の活性化を図るために開催しました。

イベントでは、サンタクロースが子供達に「メリークリスマス」と声を掛けながら、お菓子の詰め合わせの配布、地元小学生などが出演する「まちかどコンサート」を開催するほか、飲食や雑貨、手作りアクセサリーなどを取り扱う子供向けのブース23店が出店しました。また、駅前のビルには、人の動きに反応して昭和30年頃の映像を投影する「古き良き昭和再現プロジェクトマッピング」やクリスマスツリー形の「イルミネーション」も設置しました。

今後、同商店街では、クリスマスイベントのほか、商店街の情報発信にも注力し、商店街の各店舗のメニューや商品の情報を写真撮影などして、デジタル地図(Googleマップ)に掲載し、鴨島駅周辺を訪れる人が、インターネットですぐ調べられるように整備していくこととしています。



徳島県と大規模災害発生時における支援活動に関する協定を締結 ～徳島県クレーン協同組合～

徳島県クレーン協同組合は、令和3年1月14日(木)徳島県庁において、災害発生時に迅速な救助活動に役立てるため、徳島県と大規模災害発生時における支援活動に関する協定を締結しました。

この協定は、大雨や地震などの災害発生時、徳島県が管理する道路や堤防などが損傷した場合に、組合がクレーン車などの重機と専門的な操作技術（資格）のある運転士を派遣し、倒木の撤去や決壊した堤防に土嚢を積むなどの応急処置に協力することになっています。



「徳島の盲導犬を育てる会」に寄付 ～徳島県中古自動車販売商工組合～

徳島県中古自動車販売商工組合と徳島県中古自動車販売店協会の2団体は、令和3年1月25日(月)徳島市のホテルサンシャイン徳島アネックスにおいて、「公益財団法人徳島の盲導犬を育てる会」に20万円を寄付しました。

組合では、平成28年から毎年盲導犬を育てる会に寄付を行っており、盲導犬の育成や視覚障害者が安心して歩ける環境づくりに役立ててもらおうとしています。



情報連絡員レポート(前年同月比)



この報告結果は、徳島県下の中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員49名に委嘱している中小企業団体情報連絡員による報告を抜粋掲載しております。

【全体の景況】

建設業関連では需要が堅調であり、自動車販売整備業においても引き続き前年度比プラスとなり、需要が好調であった様子。またエアコン・テレビなどの買換や家庭用食品が巣ごもり需要により堅調。加えて、貨物運送業からは荷動きが回復傾向にあるなどの明るい報告も寄せられた。

一方、高齢化や人材不足など慢性化する労働力問題をはじめ、依然として原材料高や燃料価格の値上がりも続いている。加えて、長らく新型コロナウイルスの影響により年末需要も伸び悩み、厳しい状況が続いており、先行きを不安視する声も多くの業種から寄せられた。

景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で出口の見えない新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、一部に持ち直しの動きがあるものの景気の低迷が続いている。県内中小企業においても、更なる景気の悪化に備える必要がある。

【製造業】

<食料品>

【味噌】新型コロナウイルス感染症の影響による巣ごもり需要で味噌は堅調。一方、業務用の飲食向けおよび観光土産品関連は消費が戻らず厳しい状況が続いている。

【漬物】漬物製造業ではコロナの影響で先行きが全く見通せない。全体的に売り上げの減少、操業時間の短縮がみられる。

<繊維・同製品>

【縫製】景気冷え込みの長期化に備え、引き続き企業体力堅めに注力している。

<木材・木製品>

【木材】ワクチン接種が始まらないと、どんな景気回復の好材料も水泡に帰してしまうような状態だ。

【製材】業界全体としてはこれまでと同様に売り上げが減少傾向にあるが、事業者間で好不調の差が大きい。

【製材】引き合いが弱く、工場稼働は先月に続き低調。

【木材】原木丸太の入荷が減少。1月に入り積雪があり、山からの丸太がかなり減り製材所に供給できるか不安。今後、入荷を期待したい。

<印刷>

【印刷】12月は「ボーナス需要」「お歳暮」「年越し」「クリスマス」等のイベントがあるがこのコロナ禍では盛り上がりたところである。アフターコロナ、ウイズコロナ時代のニューノーマルについて準備をしていかなければならない。

【印刷】12月は1年の中でも受注量の多い月ではあったが、コロナの影響もあり期待していた数字をあげられた企業は少なかったようだ。

<窯業・土石製品>

【生コン】12月は昨年同月と比較して約14%減少。今後コロナウイルス感染拡大の影響が少なからず業界に影響を及ぼしてくるのでは(次年度以降の建設予算等)と戦々恐々である。

【生コン】12月の出荷数量は、対前年同月比7%増であった。また依然として運転手の高齢化と若年層の人材不足が深刻な問題であり、今後の緊迫した課題として対応が迫られている。

<鉄鋼・金属>

【鉄鋼】業況は弱含み状況ではあるが、設備操業度は回復基調にあることがうかがえる。

【ステンレス】国内の状況については、動きは鈍い中でも回復の兆しはあったが、国内での感染拡大を受けて先行き不透明感が強くなってきつつある。海外での営業活動についても、コロナ禍以前と同様までの回復はまだ見通しが立たない状況にある。

<一般機器>

【機械金属】第3波と言われるほど、新型コロナウイルス感染症の影響が全国的に急増してきており、営業活動の停滞等

により売上高や引合いなどに引き続き厳しい状況も見られ、景況感の悪化が懸念される。

【非製造業】

<卸売業>

【食糧卸】業務用商品の消費量が益々減少。

【各種商品卸】コロナウイルス感染症による需要減退感が強い。

<小売業>

【ショッピングセンター】新店がオープンし、館全体では売上の前年対比は121.6%、客数は109.8%だった。12月の売上高の前年対比は全店計102.3%(既存店104.4%)、客数99.9%(既存店102.7%)だ。新店が既存店の売上を底上げしたのは事実だが、この状態を持続させねばならない。新店の集客力に頼らず、売上の維持及び増加の対策が重要だ。

【電気機器】引き続き、買換需要もあり大きな変動はなく、今後の社会情勢に注意が必要。

【量小売業】12月も好天に恵まれたが、一般家庭の仕事は少なかった。ハウスメーカーの新築引き渡しも20日頃にはほぼ終わり、あとは来年。営業用(ホテル、飲食関係)はほとんどに少なかった。

<商店街>

【徳島市】例年の年末と比べ人の流れがなく、各店とも売上は減少していた。

【徳島市】旅行の機会も減り、クリスマスセール前の駆け込み需要も見受けられず、依然として厳しい状態は続いている。

<サービス業>

【土木建築業】工務課は新直轄工事は一部供用に向けて忙しく工事を進めている。道路管理課は橋梁補修等が去年より多く発注され、忙しくしている。交通対策課は共同溝の整備事業が多く予定されているのでそれなりに忙しい。国土強靱化で工務課の工事は増える見込み。同様に道路管理課・交通対策課でも工事は増えると思われる。

【自動車整備】登録車、軽自動車ともに先月に引き続き前年度比プラスとなり、新車の販売台数は16%以上の増加。新型コロナウイルスの収束は未だめどが立たないが、これから入る繁忙期に期待したい。

【旅行業】12月はまたコロナ感染者数が増加やGoToの延期などでますます旅行業界にとっては厳しい状況になっていると思われる。

【ビル管理】新型コロナウイルス感染症の拡大回避の影響が顕著なホテル分野のメンテナンス業務においては、経営や人材確保、業務遂行方法などに影響があり、事業の縮小による減収や従業員への休業補償などが重い課題となっている。

<建設業>

【建設業】政府は防災・減災のための国土強靱化対策として今後5年間で15兆円程度の事業費を確保した。徳島県でも第3次補正予算において、公共事業費が多く計上される見込みである。

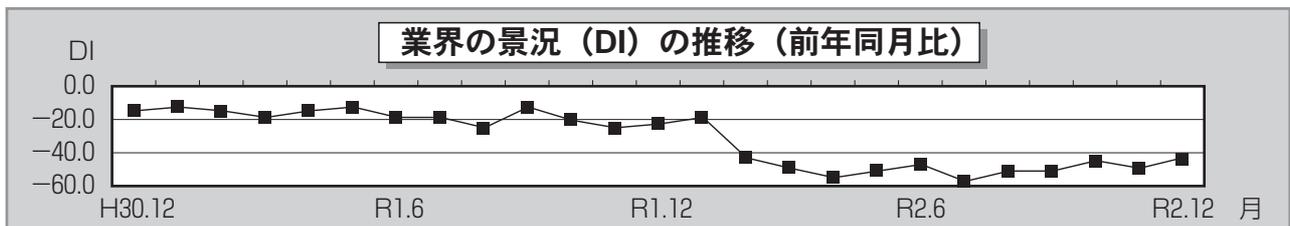
【板金工事業】板金業界は、あくまでコロナ禍の中での状況だが、忙しくなっている。年末年始も良好状態だ。

【電気工事業】新設住宅口数は110件であり、対前年比62.8%と減少した。

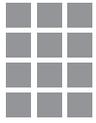
<運輸業>

【貨物運送業】新型コロナの影響は大きく、例年ならば繁忙期なのに営業日数も年末には数日早く終わるところもあり、低調に推移した。また軽油単価は海外市況を受け前月平均比で約4円強の値上りとなり、収益低下のダブルパンチ状況となっている。

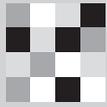
【貨物運送業】12月に入り軽油価格が値上がりも続けていて5週連続して値上がった。1月に入ってもまだ値上がりの傾向にある。運送業界全体では荷動きはコロナ禍前までにはなんとか戻りつつある。



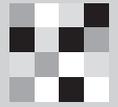
※ DI値とは、各景況項目について「増加」(又は「好転」)業種割合から「減少」(又は「悪化」)業種割合を差し引いた値



青年部コーナー



青年部活動トピックス



◇令和2年度 組合青年部リーダー交流会議を開催◇

令和3年1月27日(水) ホテルサンシャイン徳島アネックスにおいて、令和2年度 組合青年部リーダー交流会議を開催しました。税理士法人 YOU 代表社員 吉本 智氏を講師に招き、「相続税・贈与税の基礎知識」をテーマにご講演いただきました。参加者18名の中、吉本氏より以下の説明がありました。

講演概要

- 相続税の範囲について、配偶者以外の法定相続人については相続順位が定められている（第1順位：子供、第2順位：親、第3順位：兄弟姉妹）。
- 相続人は被相続人から財産上の一切の権利義務を承認するか又は相続を放棄するかを自由に選択することができる権利が与えられている。承認については単純承認、限定承認するかを意思表示する必要がある。
- 贈与税の課税には以下の2つが挙げられる。
 - ①暦年贈与（その年の1月1日から12月31日までの1年間に個人から贈与を受けた財産の価額を合計し、その合計した価額から基礎控除額110万円を控除した残額について、贈与税を計算する制度）
 - ②相続時精算課税に係る贈与（贈与者が亡くなった時にその贈与財産の贈与時の価額と相続財産の価額とを合計した金額を基に計算した相続税額から、既に納めたその贈与税相当額を控除することにより、贈与税・相続税を一体的に扱って納税を行う制度）
- 「相続税・贈与税の今後の対策」については以下の通りである。
 - ・ご自身の相続財産の総額を把握する。
 - ・計算後相続税が発生するのであれば、贈与（暦年課税、相続時精算課税）の適用を視野に入れる。
 - ・将来の自己所有財産・債務の引き継ぎ先を検討する。
 - ・遺言書（公正証書遺言など）の準備を視野に入れる。
 - ・不明確な点がある場合は、専門家へ事前に相談する。



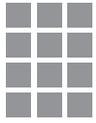
後藤田会長挨拶



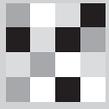
リーダー交流会議風景

★今後のスケジュール★

- 令和3年3月中旬 徳島県商工3団体次世代プロジェクト事業会議
- 令和3年4月中旬 令和3年度 第1回 役員会



女性部コーナー



女性部活動トピックス



◇とくしまレディース中央会「研修会及び新年交流会」を開催◇

令和3年2月19日(金)、ホテルサンシャイン徳島アネックスにおいて、令和2年度 とくしまレディース中央会の研修会及び新年交流会を開催しました。研修会では、一般社団法人徳島経済同友会代表幹事の坂田千代子氏を講師に招き「生き生きと働く女性が増えれば、地域経済の発展に繋がる。」をテーマにご講演頂きました。

研修会後の新年交流会では、研修や会議等で活用できるアイスブレイクの事例等を紹介した後、会員同士で名刺交換や意見交換を通して交流を深め、盛会のうちに閉会となりました。



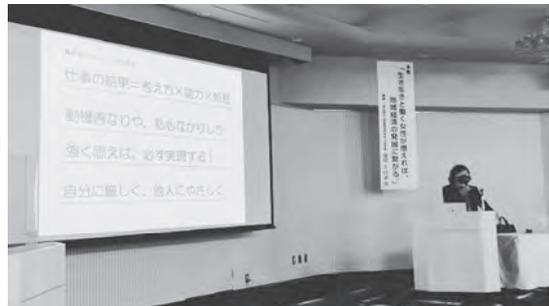
研修会風景①



研修会風景②



とくしまレディース中央会 中本会長挨拶



(一社)徳島経済同友会 代表幹事 坂田千代子氏による講演



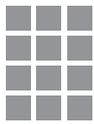
新年交流会風景①



新年交流会風景②

★今後のスケジュール★

- 理事会 (令和3年4月下旬 中央会会議室)
- 通常総会 (令和3年6月中旬 ホテルサンシャイン徳島アネックス予定)



中央会トピックス

令和2年度モデル組合を紹介します ～徳島製材団地協同組合・全日食チェーン四国協同組合～

本会では、他の模範となる中小企業組合をモデル組合として認定し、その優れた共同事業運営の仕組みや社会貢献活動を県内各組合で共有化することで、県内中小企業の組織化推進及びレベルアップを図るため、モデル組合認定支援事業を実施しています。

“モデル組合”の要件

本会会員組合であって、以下のすべてを満たす組合です。

- ① 組合設立後15年以上経過していること。
- ② 組合の事業運営、組織運営が適切で、かつ財務内容が堅実であること。
- ③ 組合の事業が組合員の利用状況、事業規模の拡大状況等からみて活発に行われていること。
- ④ 専従役員が1名以上いること又はそれと同等の事務処理が可能な体制となっていること。
- ⑤ 中央会の指導を受けていること。
- ⑥ 根拠法、その他の法令に違反していないこと。
- ⑦ 定款が法令に違反していないこと。
- ⑧ 事業報告書、決算関係書類の作成方法等が法令に違反していないこと。
- ⑨ 過去3年間の決算において、連続して当期損失を計上していないこと。
- ⑩ 直近決算において、差引正味財産が出資額を下回っていないこと。

令和2年度“モデル組合”認定証贈呈

令和2年10月12日に開催しましたモデル組合認定審査委員会において、2組合（徳島製材団地協同組合、全日食チェーン四国協同組合）がモデル組合として認定され、モデル組合認定証を贈呈いたしました。



徳島製材団地協同組合



全日食チェーン四国協同組合

令和2年度“モデル組合”の取り組み

モデル組合として認定された事例を通して、今後の事業運営や組織運営に少しでも参考にしていただければと思います。また、本会ホームページにてさらに詳しい内容を「モデル組合事例集」として掲載予定です。

徳島製材団地協同組合

住 所：徳島市津田海岸町5番13号 理事長：多田 雅信
 設立年月日：1969年12月5日 組合員数：14名

<評価されたポイント>

- ・異業種組合でありながら、帯鋸目立事業・木材チップ共同販売・倉庫保管事業などの共同事業が活発に行われている。
- ・徳島県と「とくしま共同の森づくり事業」においてパートナーシップを締結するほか、とくしま木づかい県民会議に参画するなど森を育てることで環境保全に努めている。
- ・集団献血活動、地域募金活動といった福祉活動に加え、津田団地内の環境整備のためLED防犯ライト設置や巡回ゴミ収集にも取り組んでいる。

全日食チェーン四国協同組合

住 所：徳島市東沖洲二丁目34 理事長：山下 浩司
 設立年月日：1985年10月24日 組合員数：58名

<評価されたポイント>

- ・共同購買、受注、保管、運送、食料加工と、卸から小売りまでの一連の流れを共同事業で行っている。
- ・設立当初よりシステム化に取り組んでおり、コロナ禍においてもオンライン会議システムを使用し、組合員が教育情報提供事業（講習会・研修会）に参加している。
- ・後継者の育成を目的としたジュニアボード（青年部）活動も活発に行われている。
- ・人口過疎地域への出店を組合としても推進しており、買い物難民を支援、地域に密着した組合員の活動を後押ししている。

実践的な営業力向上セミナーを開催

令和2年12月15日(火)、徳島市のホテルサンシャイン徳島アネックスにおいて、実践的な営業力向上セミナーを開催しました。

本セミナーは、効果的に売込先企業との商談に臨む際の「心構え・準備事項・PRポイント」を理解して頂くために開催しました。

なお、講師には認定特定非営利活動法人 経営支援NPOクラブ 講演会チームリーダーの佐藤秀治氏、理事の長 和雄氏をお招きし、「自社商材の提案方法、ノウハウ」、「お客様を惹きつける会社・商品・営業」などについて説明があり、参加者は熱心に聴講されていました。



組合管理者講習会を開催

令和3年2月9日(火)、徳島経済産業会館において、「組合の決算・税務手続」をテーマに、組合管理者講習会を開催しました。

本講習会は、決算期を控えた時期に、正しい組合の会計知識を理解して頂くために毎年開催しています。

なお、講師には、公認会計士の後藤吾郎氏をお招きし、年度末における決算手続を中心に、経理処理のポイント並びに決算関係書類の書式について説明がありました。

また、令和2年度の各種税制改正やコロナ対策税制などについて詳しく説明され、参加者は熱心に聴講されていました。その後、参加者からの個別相談に対応し、閉会となりました。



新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けた 取組みの促進について要望

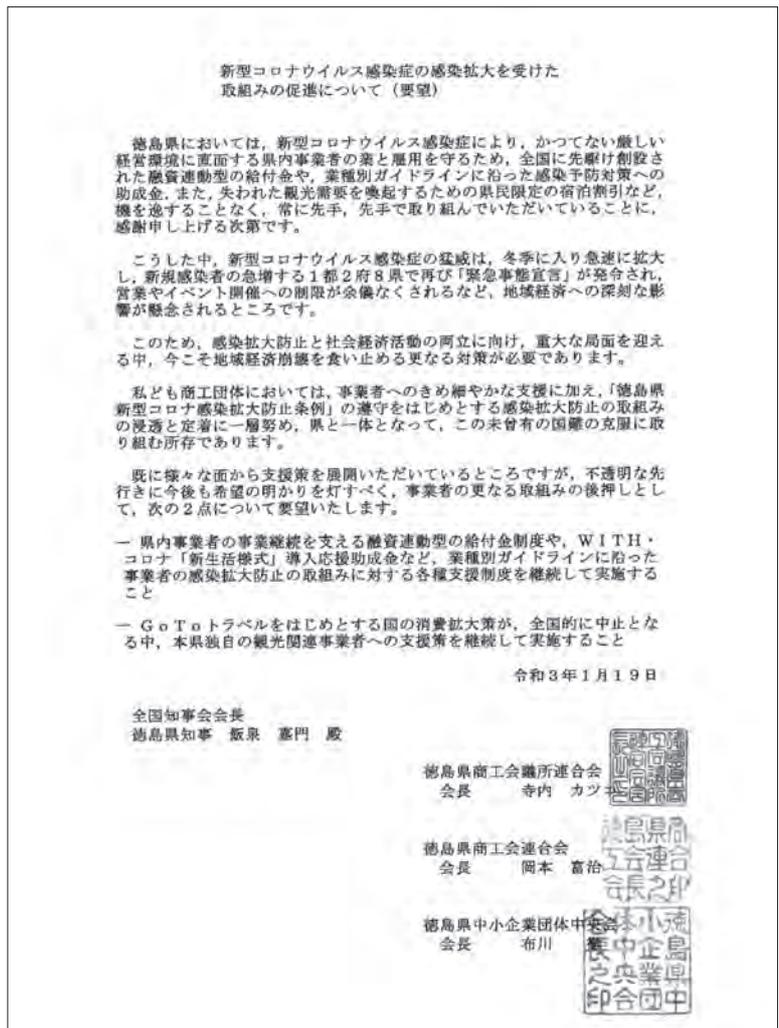
徳島県中小企業団体中央会、徳島県商工会議所連合会、徳島県商工会連合会の経済3団体は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で地域経済への深刻な影響が懸念される中、令和3年1月19日(火)、徳島県庁を訪問し、飯泉嘉門全国知事会会長・徳島県知事に対して、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けた取組みの促進についての要望書を提出しました。

要望書では、①県内事業者の事業継続を支える融資連動型の給付金制度やWITH・コロナ「新生活様式」導入応援助成金など、業種別ガイドラインに沿った事業者の感染拡大防止の取組みに対する各種支援制度を継続して実施すること、②GoToトラベルをはじめとする国の消費拡大策が、全国的に中止となるなか、本県観光関連事業者への支援策を継続して実施することの2点を要望しています。

本会では、今後も引き続き、会員の皆様の意見や要望の実現に向け、国・徳島県などに対し、他の経済団体などと連携しながら働きかけていくこととしています。



経済3団体代表者による要望



経済3団体代表者が提出した要望書

中小企業使える BCP（事業継続計画）訓練 モデル事業を開催

令和2年11月4日(水)～6日(金)、徳島県企業 BCP 制度の認定を受けている企業3社（株式会社マルハ物産、株式会社日産サテリオ徳島、株式会社はなおか）を対象に、各社にて中小企業使える BCP 訓練モデル事業を実施しました。

本事業は、講師に株式会社フォーサイトコンサルティングの五十嵐雅祥氏をお招きし、個々の企業に訪問。それぞれの実情に合ったオリジナルの訓練を実施することで BCP の行動手順や操作手順を確認し改善するとともに、各従業員の BCP に対する理解を深めました。

訓練では、発災時に何を行う必要があるか、そのためにどのような準備が必要かについて参加者同士で話し合い、今後の検討材料の洗い出しを行いました。

各社はそれぞれ訓練で得た気づきや課題を整理すると共に、訓練時に参加者が記入した「振り返りシート」を参考に、現状 BCP の改善に結びました。



オリジナル訓練を行う徳島県企業 BCP 認定企業

BCP（事業継続計画）図上訓練を開催

令和3年2月12日(金)午後1時30分より、徳島市のろうきんホールにおいて、BCP（事業継続計画）図上訓練を開催しました。

講師に株式会社フォーサイトコンサルティングの五十嵐雅祥氏をお招きし、「新型コロナウイルス対策に関するワークショップ」を実施しました。まず最初に講師より演習方法について説明が行われた後、参加者24名（15企業等）が5班に分かれ、新型コロナウイルスの流行時に行うべき行動を検討した上で、具体的な行動内容や準備物を明確化していきました。

参加者は擬似的な訓練をすることで、行動能力向上を図りました。また参加者同士で意見交換し合うことで、新たな気づきを得られ、有意義な時間になりました。



BCP 図上訓練

組合活性化情報令和元年度第1号から中央会事務局職員が会員の皆様に、より親しんでもらえるよう、プライベートなこと（趣味、特技、熱中している物事、最近気になっている物事など）について、綴っていきます。第8回目は、三木主事です。

三木 理恵 [連携推進課 主事]

①自己紹介

生まれも育ちも徳島。星座は山羊座、血液型はO型です。子供時代は、5歳上の兄に混ざってドッジボールやケイドロ等の外遊びを中心に遊んでいました。どんくさい私は、いつも「あぶらご（阿波弁）：小さい子供は鬼を免除されて仲間に入っている状態」扱いでしたが、どれも楽しい思い出です。現代のテレビゲームやスマホゲームとは違い、寒い冬も外を犬のように走り回っていました。しかしそれも昔のことで、今はめっきり運動不足なので、自身の生活習慣を振り返り、運動する習慣を身につけようと思っています。

②趣味について

徳島ヴォルティスと広島東洋カープを応援しています。特に去年は徳島ヴォルティスが悲願のJ1昇格とJ2優勝を果たし、大きな感動を与えてもらいました。ここ数年、あと一步のところまで昇格を逃してきましたが、これまでの努力が報われて喜びもひとしおです。今年もJ1の舞台で闘う選手たちを応援するのが楽しみです。

その他にも、食べること、旅行、自転車、一眼レフカメラと大好きなことが沢山ありますが、興味の幅が広すぎて知識や教養が深まらず、どれも極めることはできていません。今年是一眼レフカメラをもっと使いこなせるようになりたいです。

③今とこれから

昨年から新型コロナウイルス感染症が流行し世界的にも猛威を奮い、徳島においても、とくしまマラソンの中止、阿波踊りも戦後初めて中止されるなど幅広い分野に影響が及びました。当分の間、感染防止予防と経済活動の両立という試行錯誤が続くと思いますが、一日も早く安心して過ごせるよう願っています。コロナ禍ではありますが、いま健康に過ごせていることに感謝しながら、前向きに過ごしていきたいと思っています。

平成27年に中央会に入職してから、多くのことを先輩や組合の皆様に教えて頂いております。今後も会員の皆様のお役に立てるよう頑張ってお参りますので、よろしくお願ひ致します。





～新型コロナウイルス感染予防について～

徳島県では、新型コロナウイルスの感染拡大防止を図るため、県民・事業者の皆様にご注意いただきたい点をまとめておりますので、ご確認の上、ご協力をお願いします。

新型コロナウイルス感染予防について

感染リスクが高まる「5つの場面」に注意しましょう!

内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室より



1 飲酒を伴う懇親会等
回し飲みや着などの共用に注意!



2 大人数や長時間におよぶ飲食
大きな声での会話を控える!



3 マスクなしでの会話
近距離での会話は特に注意!



4 狭い空間での共同生活
トイレなどの共用部分での感染に注意!



5 居場所の切り替わり
休憩室や喫煙所、更衣室でも対策が緩まないように!

★店舗をご利用の際は、「事業者版スマートライフ宣言」や「ガイドライン実践店ステッカー」の確認を!

感染が拡大している地域との往来は慎重に!

- ホームページ等で訪問先の情報を確認、当該都道府県の要請に沿った行動を!
- 訪問先での飲食の際は、感染防止対策実践ステッカー・宣言書等の確認を!

来県されるご親戚や友人がいらっしゃる場合

体調を確認いただき、体調が優れない方は来県を控えていただくよう要請を!

新型コロナウイルス感染症に関する偏見・差別は絶対にやめましょう!

- 感染予防などのお問い合わせ
▶ 一般電話相談窓口(24時間) TEL:0120-109-410
- 発熱等の症状があり、相談できる医療機関がない場合のお問い合わせ
▶ 受診・相談センター(24時間) TEL:0570-200-218

徳島県新型コロナウイルス対策ポータルサイトをご覧ください。



徳島県新型コロナウイルス感染症対策本部

編集 後記

- ◆ 第158号発刊にあたり、関係機関の方々からご協力いただきありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

- ◆ 特集では、「四国の元気な組合」を紹介させていただきました。今後の組合運営に役立てて頂ければ幸いです。ご不明な点等がありましたら、お気軽に中央会までお問い合わせ下さい。

- ◆ ものづくりの達人では、mono（モノ）株式会社様を紹介しています。同社は、徳島市内の住宅地で、身体にやさしい宝石石鹸や手作り化粧品などを製造販売されています。事務所兼製造工場は、平成24年2月に第13回徳島市「街づくりデザイン賞」を受賞されています。そのデザインは、機能性に富み、環境にも配慮され、近隣の住宅地に溶け込んだ、まさに“やさしさ”を感じる造りになっていると実感しました。また、宝石石鹸の魅力や特徴などについて深く知ることができ、自分自身で宝石石鹸を作り、自宅の部屋に飾ってみたいと思いました。この度は貴重なお時間を頂きありがとうございました。

- ◆ 今シーズンからJ1に昇格した「徳島ヴォルティス」の2021シーズンが2月27日に開幕しました。これまで新聞やニュースで徳島ヴォルティスの試合結果を見て応援してきましたが、J1定着を願い、ホームゲームにはできる限りスタジアムに足を運んで、シーズン終了まで全力で応援していきたいと思います。LOVE ヴォルティス！ (崇)

vol. 04
令和2年度 第4号
(年間4回発行 通巻第158号)

組合活性化情報 中央会とくしま



日峰山頂からの眺望 水彩画/布川 嘉樹